

講義録レポート

講 座	証券アナリスト	科目①	証券分析
目標年	2015年合格目標	科目②	
コース	1次 科目別 学習解説セミナー	回 数	1 回

収録日	2014 年 11 月 20 日		
講師名	山岡 先生	講義録 枚数	3 枚 ※レポート 含まず
		補助資料 枚数	14 枚 (サイズ)

講義構成	講義（ 27 ）分		
使用教材	①		
	②		
	③		
	④		
配布物	有 . 無		
	①		
	②		
	③		
正誤表	有 . 無	枚	
備考			

証券アナリスト 講義録	科目	証券分析	コース	1次科目別 学習解説 セミナー	回数	
	目					

配布物	★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師	山岡 先生
-----	--	--------------------------------------	----	-------

テキスト ページ	黒板内容
	①日本の証券市場 国 企業 債券(国債) 債券(社債) 株式 利回り分析 信用リスク 株価 ④債券分析 ②ファンダメンタル分析 ③株式分析 複数の資産の組み合わせ(MPT) — ⑥ポートフォリオ マネジメント 株式・債券・金利など何らかの数値に基づいて 価値が決まる — ⑤デリバティブ分析

証券アナリスト 講義録	科目 証券分析	コース 1次科目別 学習解説 セミナー	回数	
-------------	------------	------------------------------	----	--

配布物	★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師	山岡 先生
-----	--	--------------------------------------	----	-------

テキスト ページ	黒板内容
	オ1問 正誤問題 15問(15点) オ2問～オ6問 セクション (I) (II) ～ (V) 制度・理論 正誤問題 計算問題 (電卓必須) ※配点…詳細はレジュメP.3 正誤・四者択一 計算・五者択一

証券アナリスト 講義録		科目	証券分析	コース	1次科目別 学習解説 セミナー	回数	
-------------	--	----	------	-----	-----------------------	----	--

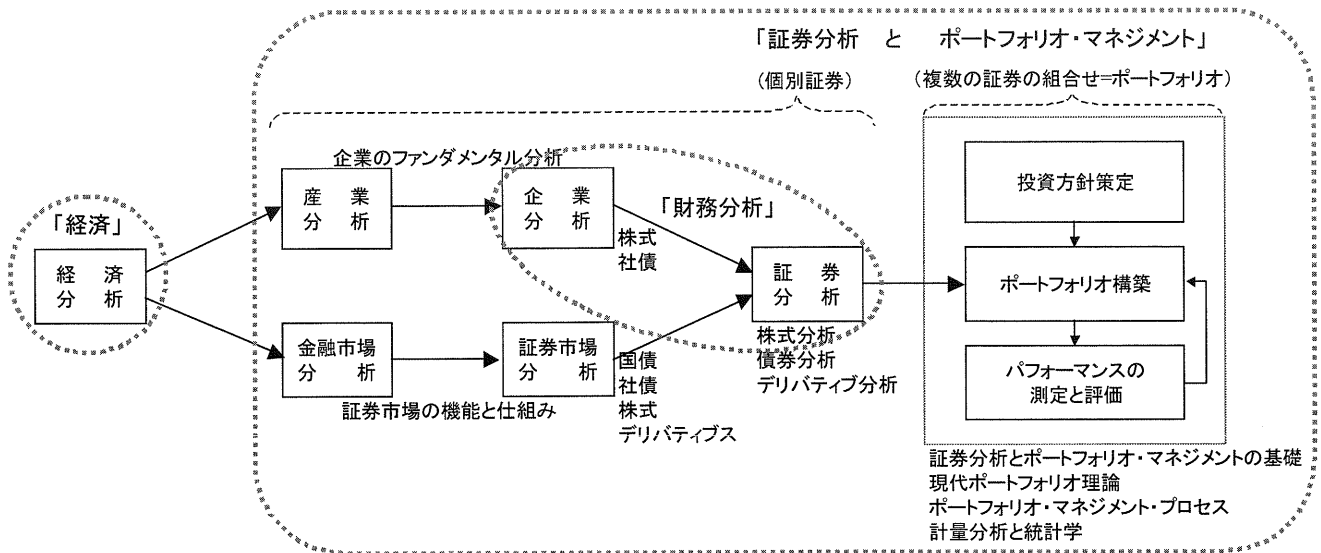
配布物	★ミニテスト：あり []	なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説	講師	山岡先生
	★実力テスト：あり []	なし	★その他のレジュメ []		
	◇配布物なし				

テキスト ページ	黒板内容
	直前期…応用実践講義 ・ 1章を2コマで消化がベース ・ 過去の本試験問題の消化を中心に 簡単な説明 ↓ 過去問を解く ↓ 解説

証券アナリスト試験 1 次 直前期対策セミナー

－ 証券分析とポートフォリオ・マネジメント －

● 企業調査、証券分析～ポートフォリオ構築まで：アナリスト試験の内容との関係



● 証券分析とポートフォリオ・マネジメントの主な内容

(2014：協会通信テキストの配本)

- 1 証券分析とポートフォリオ・マネジメントの基礎
(証券投資のリターンとリスク、リターンとリスクの計測、ポートフォリオ理論の基礎)
- 2 証券市場の機能と仕組み
(証券の種類、証券市場の仕組み、証券発行市場、証券流通市場、証券市場のプレイヤー:証券会社と機関投資家)
- 3 計量分析と統計学 (1)
(証券分析で使う数学、統計学の基礎、回帰分析とベータ)
- 4 現代ポートフォリオ理論
(投資家の選好、ポートフォリオ理論、CAPM、マルチファクター・モデルとAPT、リスクニュートラル・プライシング、市場の効率性)
- 5 企業のファンダメンタル分析 (産業分析と企業分析、主要な財務分析指標、主な企業分析手法)
- 6 株式分析 (配当割引モデル、株式価値算定の3つの等価アプローチ)
- 7 債券分析 (債券のキャッシュフローとその評価、様々な利回り概念、金利の期間構造、債券投資のリスク、信用リスクと格付け)
- 8 デリバティブ分析 (デリバティブとは、デリバティブの仕組みと価格形成、わが国のデリバティブ市場、投資戦略への応用)
- 9 ポートフォリオ・マネジメント・プロセス
(ポートフォリオ・マネジメント・プロセスの概要、アセット・アロケーション、マネジャー・ストラクチャー、個別証券ポートフォリオ、パフォーマンス測定と評価)

● T A C総まとめテキストと協会通信テキストとの対応関係

TAC 総まとめテキスト	協会通信テキスト
第 1 章：ポートフォリオ・マネジメント	1) 証券分析とポートフォリオ・マネジメントの基礎 3) 計量分析と統計学(1) 4) 現代ポートフォリオ理論 9) ポートフォリオ・マネジメント・プロセス
第 2 章：債券分析	7) 債券分析
第 3 章：ファンダメンタル分析	5) 企業のファンダメンタル分析
第 4 章：株式分析	6) 株式分析
第 5 章：デリバティブ分析	8) デリバティブ分析
第 6 章：証券市場の機能と仕組み	2) 証券市場の機能と仕組み

● T A C応用実践講義・進度予定（2014 年度実績）

応用実践 1	第 1 章：ポートフォリオ・マネジメント①
応用実践 2	第 1 章：ポートフォリオ・マネジメント②
応用実践 3	第 2 章：債券分析①
応用実践 4	第 2 章：債券分析②
応用実践 5	第 3 章：ファンダメンタル分析
	（第 6 章：証券市場の機能と仕組み）
応用実践 6	第 4 章：株式分析
応用実践 7	第 5 章：デリバティブ分析①
応用実践 8	第 5 章：デリバティブ分析②

● 出題傾向

平成 26 年春（大問 6 問，合計 98 問） 180 分

問 題	分 野	内 容	理 論
第 1 問	日本の証券市場 (15 問 : 15 点)	証券市場の機能と仕組み	※制度など
第 2 問	企業のファンダメンタル分析 (15 問 : 30 点)	個別銘柄の分析・評価	財務分析
第 3 問	株式分析 (15 問 : 30 点)	個別銘柄の分析・評価	現在価値
第 4 問	債券分析 (18 問 : 35 点)	個別銘柄の分析・評価	現在価値
第 5 問	デリバティブ分析 (15 問 : 30 点)	個別銘柄の分析・評価	現在価値，無裁定
第 6 問	ポートフォリオ・マネジメント (20 問 : 40 点)	・証券分析とポートフォリ オ・マネジメントの基礎 ・現代ポートフォリオ理論 ・ポートフォリオ・マネジ メント・プロセス	・(リスク)分散効果 ・投資家の選好 ・パフォーマンス評価

* 選択問題（四者ないし五者択一）

平成 25 年（春）～平成 26 年（秋）

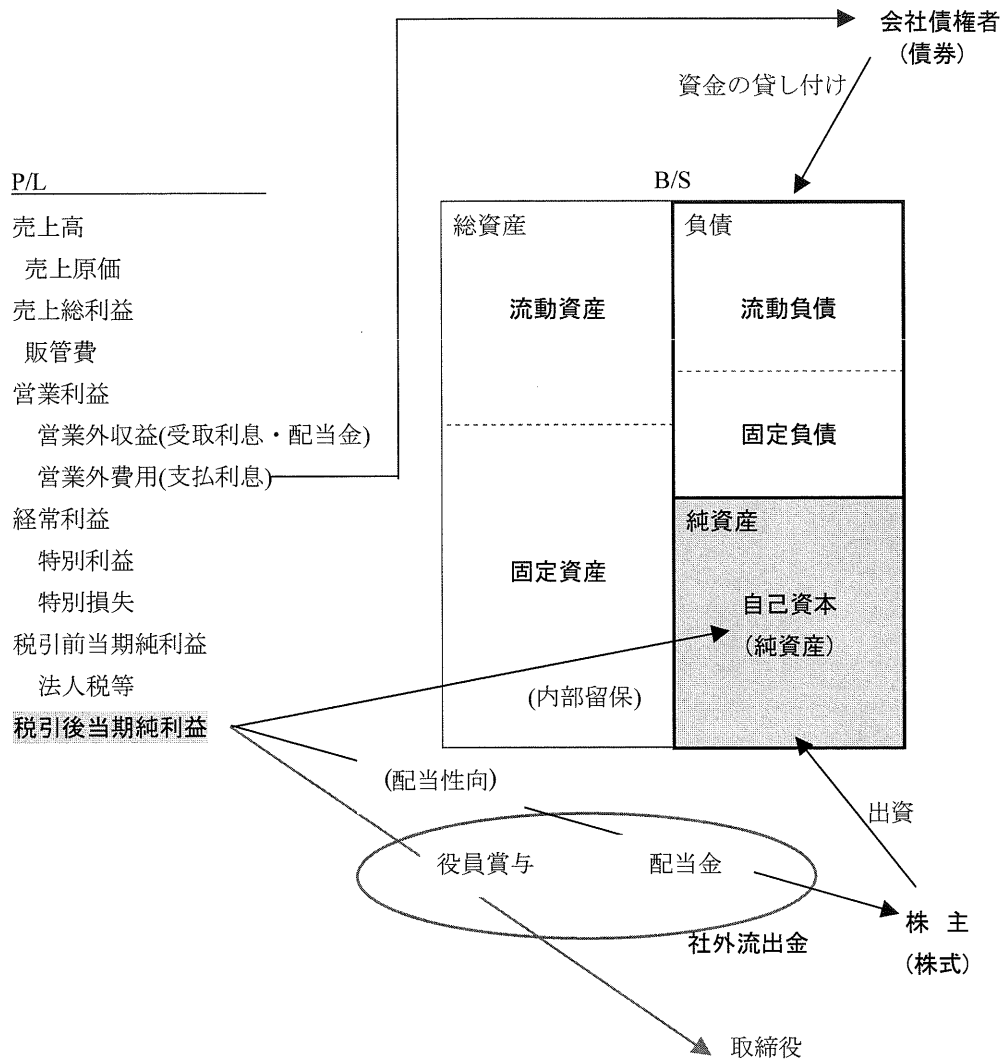
問 題	分 野	平成 25 年 (春)	平成 25 年 (秋)	平成 26 年 (春)	平成 26 年 (秋)
第 1 問	日本の証券市場	15 問 (15 点)	15 問 (15 点)	15 問 (15 点)	15 問 (15 点)
第 2 問	企業のファンダメンタル分析	15 問 (30 点)	16 問 (30 点)	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)
第 3 問	株式分析	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)
第 4 問	債券分析	18 問 (35 点)	18 問 (35 点)	18 問 (35 点)	18 問 (35 点)
第 5 問	デリバティブ分析	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)	15 問 (30 点)
第 6 問	ポートフォリオ・マネジメント	20 問 (40 点)	20 問 (40 点)	20 問 (40 点)	20 問 (40 点)
合 計		98 問 (180 点)	99 問 (180 点)	98 問 (180 点)	98 問 (180 点)

- 全体で 98 問・180 点満点
- 第 1 問は例年 15 問・15 点（各 1 点）
- 第 2 問～第 6 問は（Ⅰ）（Ⅱ）～（Ⅴ）といったセクションに分割

第 2 問：企業のファンダメンタル分析

第 3 問：株式分析

※) このあたりは「財務分析」と密接です



● 企業のファンダメンタル分析

収益性の分析

財務安全性の分析

キャッシュフロー分析

● 株式分析

株価指標

1 株当たり当期純利益 (EPS) ⇔ 株価収益率 (PER)

1 株当たり純資産 (BPS) ⇔ 株価純資産倍率 (PBR)

株式価値評価 (現在価値)

配当割引モデル, 残余利益モデル, キャッシュフロー割引モデル

第6問：証券分析とポートフォリオ・マネジメントの基礎（現代ポートフォリオ理論）

基本統計量

(1)リターン

①期待値(期待収益率)： $E[R]$

(2)リスク

②分散： $\sigma^2, \text{var}(R)$ ③標準偏差： σ

(3)2証券の関係

④共分散： $\text{Cov}_{X,Y}, \sigma_{X,Y}$ ⑤相関係数： $\rho_{X,Y}$

(1) リターン

投資収益率 (R)

$$R_X = \frac{\overbrace{(\text{売却価格} - \text{購入価格})}^{\text{キャピタル・ゲイン}} + \overbrace{\text{配当金}}^{\text{インカム・ゲイン}}}{\text{購入価格}}$$

証券A

現在の株価	1年後	
	株価	配当金
1,000円	1,040円	20円

$$R_A = \frac{(1,040 - 1,000) + 20}{1,000} = \frac{1,060 - 1,000}{1,000} = 0.06 = 6\%$$

① 期待値

証券A（買おうか？）

今後1年間の景気見通しについて...

景気の状態	確率 (P)	各状況における投資収益率
好 況	30%	+15%
普 通	50%	+6%
不 況	20%	-15%
合 計	100%	???

$$\begin{aligned} ??? &= 0.3 \times (+15\%) + 0.5 \times (+6\%) + 0.2 \times (-15\%) \\ &= +4.5\% \\ &= E[R_A] \end{aligned}$$

証券Aの収益率の期待値（期待収益率）

期待値 $E[R_X]$: Expected Value

$$E[R_X] = \sum P_i R_{X,i}$$

このケースでは...

$$\begin{aligned} E[R_X] &= (P_{\text{好況}} \times R_{X,\text{好況}}) + (P_{\text{普通}} \times R_{X,\text{普通}}) + (P_{\text{不況}} \times R_{X,\text{不況}}) \\ &= (\text{各状況の起きる確率} \times \text{各状況における投資収益率}) \text{の合計} \end{aligned}$$

※ 「期待値」という用語は平均値とほぼ同義に用いられますが、データの平均は期待値と呼びません。

- 証券 A に加えて証券 B への投資を考えます。

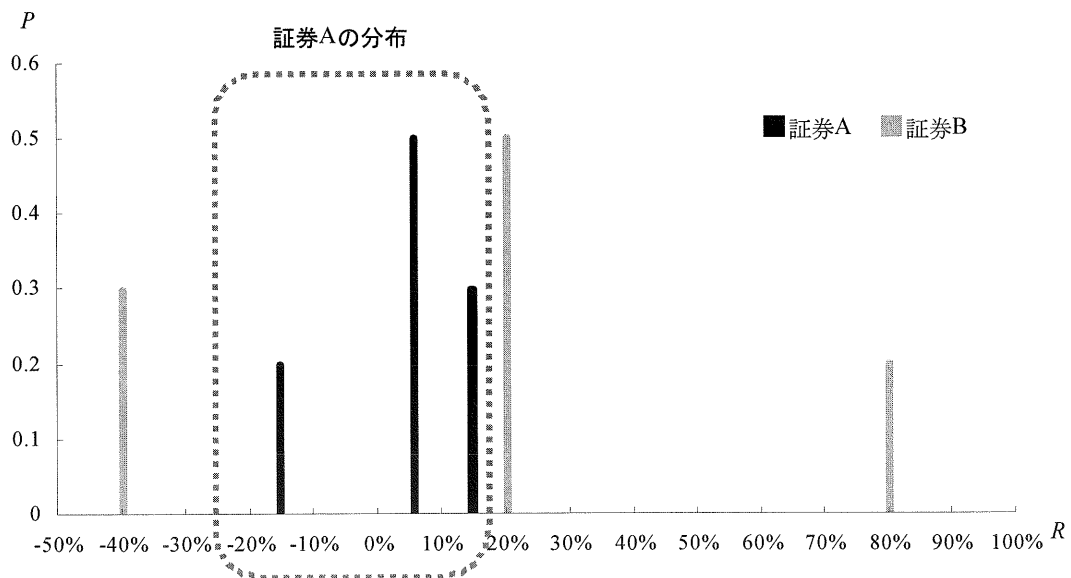
景気の状態	確率 (P)	各状況における投資収益率	
		証券 A	証券 B
好 況	30%	+15%	-40%
普 通	50%	+6%	+20%
不 況	20%	-15%	+80%
合 計	100%	+4.5%	$E[R_B]$

$$E[R_B] = 0.3 \times (-40\%) + 0.5 \times (+20\%) + 0.2 \times (+80\%) = +14\%$$

とりあえず、リターン(期待収益率)は証券 A よりも高いのですが...

(2) リスク

- 確率分布



証券Aと証券Bを比較してみると、グラフからは証券Bの方が分布のばらつきは大きな「感じ」がします。

② 分散(期待値からのばらつき)

景気の状態	確率 (P)	証券 A	証券 B
好 況	30%	$0.3 \times (+0.15 - 0.045)^2$	$0.3 \times (-0.40 - 0.14)^2$
普 通	50%	$0.5 \times (+0.06 - 0.045)^2$	$0.5 \times (+0.20 - 0.14)^2$
不 況	20%	$0.2 \times (-0.15 - 0.045)^2$	$0.2 \times (+0.80 - 0.14)^2$
合 計	100%	=0.011025	=0.1764

$$\begin{aligned} \text{証券 A の分散 } \sigma_A^2 &= 0.3 \times (+0.15 - E[R_A])^2 + 0.5 \times (+0.06 - E[R_A])^2 + 0.2 \times (-0.15 - E[R_A])^2 \\ &= 0.3 \times (+0.15 - 0.045)^2 + 0.5 \times (+0.06 - 0.045)^2 + 0.2 \times (-0.15 - 0.045)^2 \\ &= 0.011025 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{証券 B の分散 } \sigma_B^2 &= 0.3 \times (-0.40 - E[R_B])^2 + 0.5 \times (+0.20 - E[R_B])^2 + 0.2 \times (+0.80 - E[R_B])^2 \\ &= 0.3 \times (-0.40 - 0.14)^2 + 0.5 \times (+0.20 - 0.14)^2 + 0.2 \times (+0.80 - 0.14)^2 \\ &= 0.1764 \end{aligned}$$

分散 σ_X^2 , $\text{var}(R_X)$: variance

$$\begin{aligned} \sigma_X^2 &= \sum P_i (R_{X,i} - E[R_X])^2 \\ &= E[(R_{X,i} - E[R_X])^2] \end{aligned}$$

このケースでは...

$$\begin{aligned} \sigma_X^2 &= P_{\text{好況}} \times (R_{X,\text{好況}} - E[R_X])^2 + P_{\text{普通}} \times (R_{X,\text{普通}} - E[R_X])^2 + P_{\text{不況}} \times (R_{X,\text{不況}} - E[R_X])^2 \\ &= \left[\text{各状況の起きる確率} \times \underbrace{(\text{各状況における投資収益率} - \text{期待収益率})^2}_{\text{偏 差}} \right] \text{の合計} \end{aligned}$$

③ 標準偏差

ばらつき具合を表す統計量として分散の平方根をとったものを確率変数 x の標準偏差 (standard deviation) といい, σ_x などで表します.

$$\begin{aligned}\text{証券 A の標準偏差} \quad \sigma_A &= \sqrt{0.011025} \\ &= 0.105 \\ &= 10.5\%\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\text{証券 B の標準偏差} \quad \sigma_B &= \sqrt{0.1764} \\ &= 0.42 \\ &= 42\%\end{aligned}$$

標準偏差 σ_x : standard deviation

$$\sigma_x = \sqrt{\text{var}(R_x)}$$

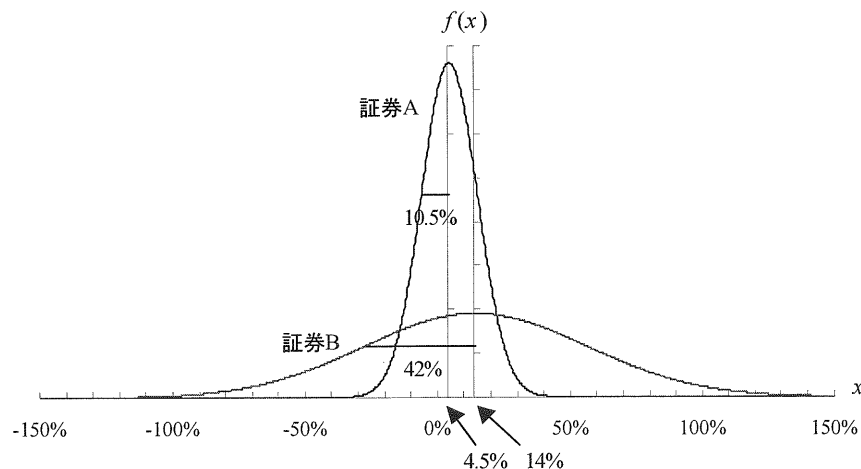
一般的に, ポートフォリオ理論で「リスク」と言った場合, この収益率の標準偏差を指します.

以上のことから, リターン (期待収益率) は証券 A よりも証券 B の方が高いのですが, 同時に, リスク (収益率の標準偏差) も証券 A よりも証券 B の方が高いことがわかります. つまり, 証券 A と証券 B を比べてみると, 証券 A はローリスク・ローリターン, 証券 B はハイリスク・ハイリターンということがわかります.

● 正規分布

証券 A と証券 B の収益率が正規分布に従うと仮定すると以下ようになります.

	期待収益率	標準偏差
証券 A	4.5%	10.5%
証券 B	14.0%	42.0%

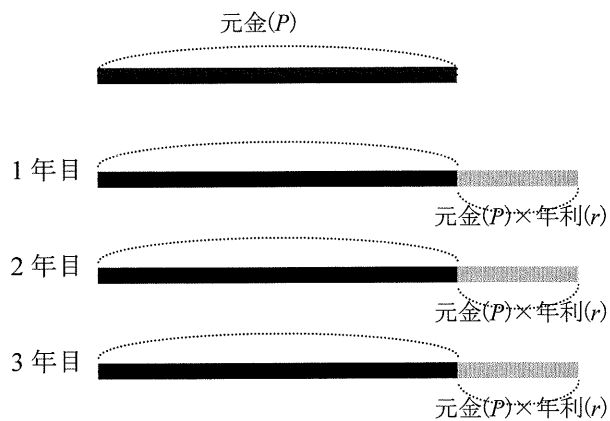


第 4 問：債券分析

■ 投資の基礎概念

1. 単利と複利

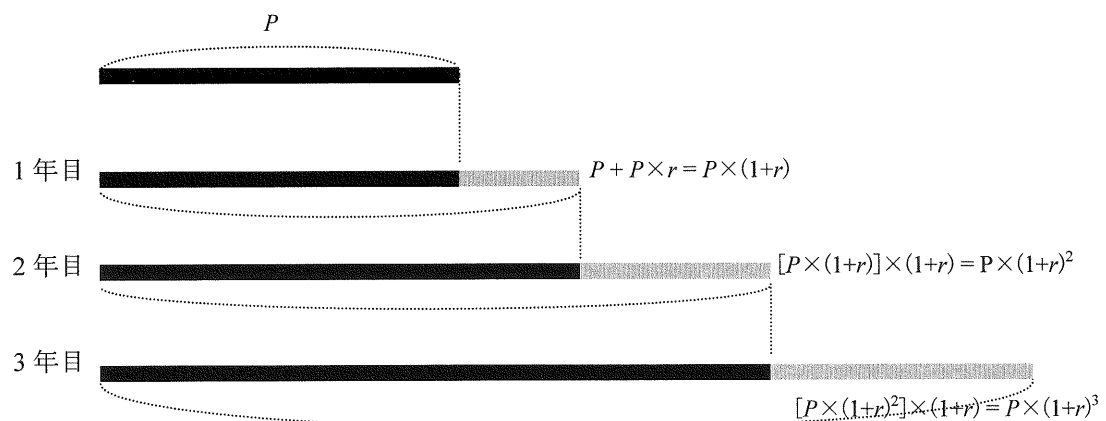
(1) 単利:元金（元本）のみが生む利息 → 利息に対する利息（再投資収益）を考慮しない



$$3 \text{ 年目の元利合計} : P + 3 \times (P \times r) = P \times (1 + 3r)$$

$$n \text{ 年目の元利合計} : P \times (1 + nr)$$

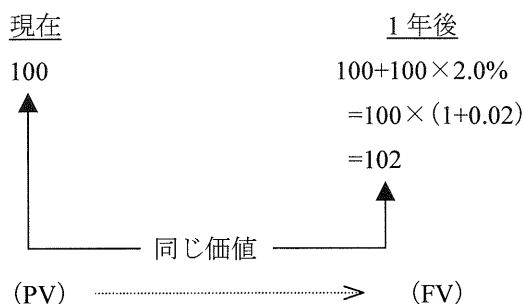
(2) 複利:利息を元金(元本)に加えて次の期間の利息を計算 → 再投資収益を考慮する



$$3 \text{ 年目の元利合計} : P \times (1 + r)^3$$

$$n \text{ 年目の元利合計} : P \times (1 + r)^n$$

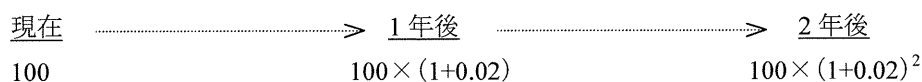
2. 現在価値 (PV; Present Value) と将来価値 (FV; Future Value)

現在:100 円 (B/K 利子率 r :年 2.0%)現在価値 $PV \times (1 + \text{利子率}) = 1\text{年後の将来価値 } FV_1$

$$PV \times (1 + r) = FV_1$$

$$\Rightarrow PV = \frac{FV_1}{1 + r}$$

2 年に拡張



$$PV \times (1 + r)^2 = FV_2$$

$$\Rightarrow PV = \frac{FV_2}{(1 + r)^2}$$

 n 年に一般化

$$PV = \frac{FV_n}{(1 + r)^n}$$

$$= \frac{1}{(1 + r)^n} \times FV_n$$

Discount Factor (割引係数)

 PV : 現在価値, FV_n : n 年後の将来価値, r : 割引率

3. 内部収益率 (IRR; Internal Rate of Return)

- ・ 今, 10,000 円投資すると 2 年後に元利合計で 10,404 円戻ってくる
- ・ この投資案件の 1 年当たりの平均投資収益率は...

$$10,000 = \frac{10,404}{(1 + r)^2} \quad (1 + r)^2 = \frac{10,404}{10,000}$$

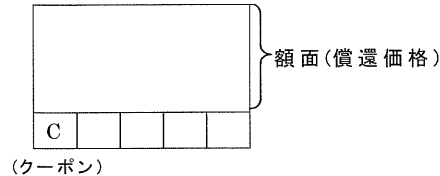
$$r = \sqrt{\frac{10,404}{10,000}} - 1$$

$$= 0.02$$

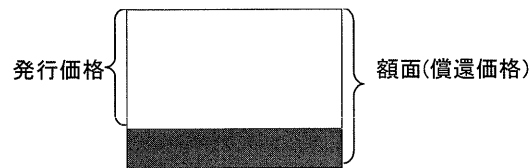
■ 債券

(1) 債券の種類

利付債（クーポン債）：発行後に定期的にクーポン（利金）の支払いがある。



割引債（ゼロクーポン債）：額面（償還価格）よりも低い価格に割引いて発行される。



(2) 利回りの計算

利率: クーポン・レート（額面に対する利金の割合）

例) 額面: 100 円
 年利率: 5% ⇒ 年 5 円のクーポン

利回り: 1 年当たりの平均投資収益率（*同じレートで再投資可能と仮定）

債券の収益（3 つ）： ① 利息収入（クーポン収入）
 ② クーポンの再投資収益
 ③ 償還差益

● 複利最終利回り（ytm ; yield to maturity）

- ・ クーポンの再投資収益を考慮する（同じレート r で再投資）← *実はかなり無理な仮定
- ・ 満期(maturity)まで保有
 ⇒ 投資元本に対して年率何%の収益を生み出したか？

■ 債券価格と複利最終利回り（ytm ; yield to maturity）

・ 利付債（年 1 回転化の複利計算 p.a.: per-annual）

$$P = \frac{C}{1+r} + \frac{C}{(1+r)^2} + \cdots + \frac{C}{(1+r)^n} + \frac{F}{(1+r)^n}$$

$$= \sum_{t=1}^n \frac{C}{(1+r)^t} + \frac{F}{(1+r)^n}$$

・ 割引債

$$P = \frac{F}{(1+r)^n}$$

P : 債券価格, C : クーポン額, F : 償還価格, r : 複利最終利回り, n : 残存年数.

(ご参考) TAC 公開模試より抜粋

2014 年春試験対策

第 4 問 (35 点)

I 債券分析に関する次の文章を読み、以下の問 1 から問 6 の各問に対する答えとして最も適切なものを A～D (ないし E) の中から 1 つ選んで、答案用紙の該当箇所をマークしなさい。

問 1 債券の利回りに関する次の記述のうち、正しくないものはどれですか。

- A 直接利回りは、インカム・ゲインだけを評価する指標である。
- B オーバーパーの利付債は、複利最終利回りが単利最終利回りより高い。
- C アンダーパーの利付債は、クーポン・レートが最終利回りより高い。
- D 1 年後の最終利回りが現時点の最終利回りと等しいとき、1 年間の所有期間利回りは最終利回りと等しくなる。

解答：C

問 6 額面 100 円、年 1 回利払い、クーポン・レート 4%、残存年数 4 年の固定利付債の利払い直後の価格が 107.62 円とする。これは最終利回りが 2%にあたる。クーポンの再投資利回りが 3%の場合、実効利回りはいくらですか。

- A 1.98%
- B 2.05%
- C 2.42%
- D 2.86%
- E 3.00%

解答：B

第 6 問 (40 点)

Ⅱ ポートフォリオ・マネジメントに関する次の文章を読み、以下の問 1 から問 3 の各問に対する答えとして最も適切なものを A～Eの中から 1 つ選んで、答案用紙の該当箇所をマークしなさい。

図表 1 に来年の景気の状態が好況、平常、不況になる生起確率、およびそれぞれの景気の状態の下での X 社株式と Y 社株式のリターン（年率）および期待リターンとリターンの標準偏差が示してある。

図表 1 来年の景気と株式リターン

景気	生起確率	株式リターン	
		X 社	Y 社
好況	20%	40%	20%
平常	50%	10%	10%
不況	30%	−20%	−10%
期待リターン		問 1	6.00%
標準偏差		問 2	11.14%

問 1 来年の X 社株式の期待リターン（年率）はいくらですか。

- A 5.62%
- B 6.24%
- C 7.00%
- D 7.86%
- E 8.42%

解答：C

問 2 来年の X 社株式のリターンの標準偏差（年率）はいくらですか。

- A 16.67%
- B 17.55%
- C 18.72%
- D 19.84%
- E 21.00%

解答：E